

白石えつ子の活動報告



障がいのある人もない人も共に生きる



3月東村山市議会報告 東村山・生活者ネットワーク 市議会議員 白石えつ子

● 会派代表質問より

つなごう！立憲・ネットを代表して渡部市長の市政方針について今後訪れる少子高齢化社会をどう乗り切るのか、第5次総合計画の理念を踏まえ、質問しました。

△ 子ども子育て▽

医療的ケア児の、保育園・幼稚園への通園継続を評価しました。就学後の保護者の付き添いなどの負担軽減を図るには、多職種の連携が必須なことから、「本市独自のガイドライン策定は考えているか」を問い、「専門性のある職員の確保、施設までの送迎などを含め、保育園・幼稚園・小学校連絡会を設置した。手厚い支援が必要な児童が安心して学習できる環境を整え横断的な切れ目ない支援につなげるには、今後ガイドラインを含め体制づくりを検討していきたい」との答弁でした。

△ 高齢者介護▽

「介護離職を招かないための介護者（ケアラー）支援をどう考えるか」の問いには、「必要性は認識している。介護離職防止のために、心理的ケア支援、介護研修支援、職場での介護者理解啓発を行い、ケアラーズカフェでも支援に努めている」との答弁でした。 ※「家族の世話をするのは当然とされていて、自分はケアラーと気づいていない」介護支援が受けられる立場だ

△ 学校教育▽

令和3年度萩山小学校に、令和5年度第四中学校に、「自閉症・情緒障がい児固定学級」開設が予定されています。 必要性などについて質問し、「自閉症・情緒障がいの児童・生徒が、国・都も増加傾向にある数値が公表されている。 通級指導学級卒業後、中学校への円滑な引継ぎ、個別指導・支援計画も保護者と連携を取りやすいなどの効果がある」との答弁でした。 ※不登校状態にある児童・生徒が通う希望学級（適応指導教室）の登録者は120名、その内20名が通学しています。固定学級なら通学できる児童・生徒も含まれている可能性があります。固定学級を選択肢となるよう配慮すること。 しかし、本来は通常学級で共に学べる環境を用意するべきことも伝えました。

人だけでなく、子ども・若者の意見の反映が目標準成に近づくと考え、会派としても努力していくことを申し添え質問を終えました。



西東京市子ども条例の制定までの過程を伺った。子どもの権利副読本を活用し、権利擁護委員が講師になり

道徳の授業を今年から行う事が決定している。教育委員会との連携が取れるとここまで進むのかと感動する内容でした。

熊本県民会館パレオ



熊本地震被災後の女性の性被害を防ぐための活動を先頭に立ちおこなってきた。性被害防止のポスターをトイレや避難所に掲示して、理解・啓発をおこなった。命を守るためには当事者意識を持つ事が大切！



福生市防災食育センター見学

給食センターだけでなく、災害時には非常食の調理や避難所としての機能も備えた複合的な災害対策施設でした。

東村山の将来を描く第5次総合計画のサブタイトルは、持続可能な開発目標SDGsが盛り込まれ、「誰ひとり取り残さない」とが求められています。大

● つなごう！立憲・ネット は令和2年度予算に賛成

社会状況の急激な変化で市民生活に深刻な影響を及ぼすことから次のことを要望し賛成しました。

- ・都市基盤大型プロジェクトは遅滞なく、費用が膨れ上がらないよう注視する。
- ・市民の命（特に声を挙げにくい子ども達、ひとり親、障がい者、高齢者、中小事業者など）と、目の前の現実に十分目配りをする。
- ・「誰ひとり取り残さない」と誓うSDGsを次期の総合計画に掲げる以上、自治体としての覚悟が問われます。子ども、若者も主体者となれる政策展開を期待。
- ・会計年度任用職員制度開始で民間からの派遣や連携が増える中、市役所で働く人たちが意欲を持ち、人が育つ職場づくりを。
- ・副市長2人制にする意義を実感できる体制。

- ・民間提案制度を軸に展開する公民連携のゴールは、15万市民の住民福祉と幸福度を高めること。
- ・拡充を続ける生活困窮者支援、社会福祉センター、障がい者就労支援、ふるさとハローワーク等の連携により、地域のセーフティーネットとして機能すること。
- ・「東村山市児童クラブの設置運営に関するガイドライン」が全ての児童クラブで遵守され、質の確保は「保護者会・父母会の設置」が生命線なので、心して臨むこと。

市民と対話を積み重ねて、逆境を乗り越えていく一年にしたいと思います。

*SDGs：国連が定めた持続可能な開発目標。2030年までに全世界で達成を目指す。人権・環境・平和を柱とする17項目で、多様性と包摂性のある社会を実現する169のターゲットで構成されている。